

## トロアスでの幻／マケドニア人の声

バルナバがマルコを連れてキプロスに渡った後、パウロはシラスを選び、アンティオキア教会の兄弟たちから主の恵みにゆだねられて第2次伝道旅行へと出発した。彼らは陸路を取りシリア及びキリキア州の各地の教会を訪問し信徒たちを励まし、更にパウロの故郷タルソを経てタウロス山脈を超え、第1次伝道旅行のとき宣教したデルベの町に到着した。

それから西のリストラに向かったが、そこで彼らはテモテという青年信徒に出会った。彼の父親はギリシャ人であったが、母エウニケも祖母ロイスもパウロの第1次伝道旅行のときパウロに導かれてキリスト者になった人たちであった。恐らくその時テモテも信者になったと思われる。

彼は有能な青年で、リストラだけでなくイコニオンの信者の間でも評判の良い人物に成長していた。パウロはこのテモテを伝道に必要な人物であると見て、彼のチームに加えることにしたが、割礼を受けていなかったのも、その地方にいるユダヤ人に躓きを与えないようにとテモテにまず割礼を受けさせた。こうしてパウロ一行はさらにイコニオン、アンティオキアへと進んで第1次伝道旅行の時に建て上げた諸教会を再訪し、信徒たちを励ました。

彼らはそこからさらに西に進みアジア州の中心であるエペソに福音を伝えたいとの計画を持っていたように思われる。しかし、アジアでみ言葉を語ることを聖霊によって禁じられたので(6節)、北のフリギア・ガラテヤ地方に進み、さらに北方のビティニヤ州に向かった。しかし再び主の御霊に妨げられたので、ミシア地方を通過して旅を続け、ついに小アジアの西北にある港町トロアスに到着した。

いったい、神はパウロ一行をどの方向に進ませようとしておられるのか。第2次伝道旅行の初期の目的(15:36)を達成した今、シリアのアンティオキアに帰還するべきか、それとも、南に向かいアジア州を巡回してエペソまで伝道の旅を続けるべきか。パウロ一行は、なぜこの町に来たのかを十分悟り得ないままにこの港町までやって来た。しかし、人間の側には不可解であっても神の側には明確な計画があった。

トロアスに滞在中パウロは、在る夜、幻を見た。一人のマケドニア人が立ち、「マケドニア州に渡ってきて、わたしたちを助けて下さい」と、彼に懇願するのであった(9節)。この幻はパウロの目を大きく海の向こうのヨーロッパに開かせる決定的な出来事となった。彼はトロアスに滞在中、その海辺に立ち、はるか西に横たわるギリシャの島々を見ながらヨーロッパ伝道に思いを馳せていたにちがいない。夜の幻に現れた一人のマケドニア人の叫びはこのパウロの思いが神からの導きであるという確信を彼に与えた。

「ヨーロッパへ渡り福音を伝えよ」という神の御心を示されたパウロ一行は(ここでルカがその一行に加わる／10節参照)、大きな希望を抱いてトロアスから船に乗ってマケドニアに向かって出発した。この船出が、キリスト教会の世界宣教史上、画期的な出来事となる。つまり、キリストの福音が海を渡って、初めてヨーロッパに伝えられる出来事となるのである。

思えば、エルサレムでユダヤ人を中心に生まれたキリスト教が、ユダヤ人の枠を超え、エルサレムから周囲の異邦人の国々へ広がり、小アジアを經由してヨーロッパの世界へと拡大発展し、ついにローマ帝国の核心にまで迫って行く、その船出の港となったのが、このトロアスであった。